

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292300017		
法人名	有限会社 かつみ		
事業所名	グループホーム時の村16号館		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	令和6年2月21日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakvo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakvo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和6年3月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園風景に囲まれた環境の中、住み慣れた地域にて共に支え合い、四季を感じる思い出作りに努めております。</li> <li>・身体面や精神面の低下がみられる方が増えてきましたが少しでも張り合いを以って生活して頂きたいです。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、利用者を人生の先輩と位置づけ、その尊厳を大切にする姿勢が全体に浸透している。自立支援面では、利用者の身体能力に合わせた支援が行われており、例えば洗濯物を干す際も、利用者のやり方を尊重し、食器洗いにも今までの方法で参加してもらっている。利用者の中には比較的元気な人が多く、トイレも職員が促すのではなく、自分のペースで自発的に行くようになっている。馴染みの面では、利用者が今まで飲んでいた牛乳を配達してもらうなど、生活習慣を尊重している。また、近隣の住人からフキノトウや甘夏、ミカン、柿などの差し入れも頂いており、地域とのつながりも深い。医療面では、月1回の通院から契約医の月2回の往診に変更し、毎週日曜の訪問看護師の来所、3名の看護助手経験者の在職も含めて、手厚い健康管理が行われている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し、安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を、地域と連携の中で、和の心を持って確立する。」という理念を朝礼(申し送り)時、職員一同再確認し、意識して業務に当たっている。又施設に掲示し個人に対して尊厳をもって接する事を意識するよう心掛けている。	個人の尊厳を尊重し、利用者を人生の先輩として意識し、日々介護を行っている。職員間のコミュニケーションは活発で、自由に意見交換が行われている。直接言いづらいことは目安箱を通じて意見を収集している。その人らしく生活を継続できるよう、利用者の生活習慣も尊重している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い時は散歩に出かけ地域の方に挨拶をしコミュニケーションを図っている。	事業所は地域とのつながりを大切にしている。近隣からはフキノトウ、甘夏、ミカン、柿などの差し入れを頂いている。また、利用者が入所前に利用していた牛乳配達も継続しており、毎日の配達時には世間話も交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地域の方々に参加して頂き、活動内容をお知らせする。利用者様も会議に参加し、交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長を始め市役所高齢者支援課の職員にて意見交換を行っている。	市の高齢者支援課の職員、地域の区長、地域包括支援センター職員、利用者家族等が参加して運営推進会議が二か月ごとに開催されている。議題は事業所の活動報告で、防災訓練の報告や職員の研修内容などが共有され、市役所職員からは利用者状況の確認や困ったことがあったらなんでも言ってくださいとの申し入れがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所高齢者支援課担当者に相談に行き、意見を伺っている。日頃から市役所各課より親切な対応をいただいています。	運営推進会議の書面は市の高齢者支援課などの窓口へ直接持参し、市から入所希望の方の相談を受けることもある。コロナワクチンの接種については頻繁にやり取りを行っている。日ごろから、こまごまとしたことも絶えず連携を保つよう心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する会議(3ヶ月に1回)を行い、声かけ・見守りの強化をし、身体拘束の無い支援を実践している。施設前の道路の交通量が多い為玄関の施錠はしていません。身体拘束の研修を行い取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会は3か月ごとに開催され、職員間で繰り返し学習が行われている。利用者一人ひとりの身体能力に合わせて、自立に向けた見守り支援を心掛けている。日頃から、職員間でスピーチロックに関する意識付けを行うため、目安箱を設置し、絶えず意識することを忘れないよう工夫している。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会を開き職員全員研修内容を共有する。また、資料等を活用し、職員に教育するとともに虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部会議を行い、成年後見制度を十分理解し、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・及び手紙にて近況を報告し請求書発送時時の村だよりプラスコメントは一人一人に添えています。	毎月の請求書には、「時の村だより」や担当職員からの手書きの手紙が同封され、利用者の様子が家族に伝えられている。家族からの要望は、電話での事業所への訪問希望が多く、またねぎらいの言葉も頻りに頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や申し送りノートを多用しています。新しい職員が半数を占めその場での口頭での確認が多くなっています。やり易く分かり易く職員間で意見を聞きながら改善すべき所は実施してます。	朝礼時や申し送りノートに加えて、普段の職員間のコミュニケーションは活発に行われている。自由な雰囲気各人がのびのびと働いている。目安箱が設置されており、職員が気が付いたことや言いにくいことを投書できるようになっている。本社の役員も定期的に来所して気軽に職員と話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を受け入れるようにし、働きやすい状況になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修に積極的に参加している。研修資料をまとめ職員同士共有し、職務に活かしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人の運営する施設訪問を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心を感じられるように寄り添い、コミュニケーションを計り、希望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで不安、要望を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況に応じ提案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者立場に立った対応を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を説明し、会話の流れの中で、本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は連絡して頂ければ面会は大丈夫です。 ただし体調はお尋ねしています。	利用者の生活習慣は尊重され、それぞれの家庭のやり方が継続されている。洗濯物の干し方や食器の洗い方など、利用者のやり方が尊重されている。2～3か月ごとに女性の利用者は出張美容サービスを受けている。また、官軍塚の河津桜やコスモス祭りなどの地元の名所にも出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を見ながら配慮し、レクリエーションを通じて関わり合いを持てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、施設等に入所された方は、訪問を行っている。家族の方に手紙・電話などで関係を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意向を聞く等し、日々の会話の中から把握できるように傾聴に努め本人の意向をくみ取る様に努めている。	今年度は入所者の入れ替わりがあり、自立出来る方がこれまでに比べてが多くなっており、この方々は割と自分で思いや意向をはっきりと意思表示が出来る様である。新型コロナも5月の5類移行に伴い、面会は月2回までとしており、居室まで入って頂ける様になった。利用者の皆さんに活気が出てくることで、職員の皆さんも元気になったように感じられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、他のサービス事業所の情報提供書を参考に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿、排便状況の把握、歌唱、描画、料理等を勧めて様子を見る等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録や気づきを基に定期的な会議にて検討し、家族、本人の要望を取り入れ介護計画を作成している。週1回ケアマネジャーが事業所を訪問している。職員各々の意見や情報を取り入れ介護計画を作成している。	管理者を中心に、ケアマネ、担当職員、利用者ご家族で毎月ケア会議を行う。週1回のモニタリングの報告や、日常ケアの報告、ご家族の要望などを共有し、自立支援に向けた調整が行われ、入所時は3ヶ月、その後は6ヶ月毎に介護計画の更新を行なっていく事になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノートを職員間で情報共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて職員からの提案など取り入れ柔軟な対応が出来るように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩にてゴミを拾い地域の美化に貢献出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診にも対応している。家族や本人の希望を大切に必要とする医療機関への受診にも対応している。ご家族に相談し病院へ受診が困難になった方に往診を依頼出来る医療機関を探した。月1回の往診だが丁寧な対応に満足されている。	協力医療機関とは、利用者個人で訪問診療の契約を行い、月2回の往診を行って頂いている。それまでは月1回の通院支援を行っていたが、そのときに較べると職員の負担も遙かに軽減され、日常のケアが充実してきている。内科専門医の為、他科への受診については、ご家族の協力をお願いするか、困難な場合は月1回程度の往診をお願い出来る医療機関を探し協力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気づきを個別記録やノートに記入し、看護師の訪問時に相談し適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密に取り、入退院時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化、終末期における意向の確認は行っている。新しい職員に対応出来るような体制を整えたい。	今年度は終末期の対応が必要な利用者はいなかった。仮にそういったケースが発生したとしても、事業所には病院経験のある職員(看護助手)が3名いるため安心して任せることが出来る。昨年から新たに提携している医療機関との連携もしっかりと取れており、万全の体制が敷かれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を受け、会議にて緊急時マニュアルを把握し、緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間と想定を変え避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めている。反復練習にて任務の再確認をしている。昨年は年末に避難訓練を消防署職員立ち合いのもと実施しました。今年度も予定しています。	日中、夜間の各想定の下、年2回の訓練が行われている。既に4年も前となるが千葉県を襲った大型台風の影響経験もあり、事前災害に対する準備は万全の状況になっているが、最近頻発している千葉県沖を震源地とする地震への対応についても今後はしっかりと対策を考えておく必要があると感じている。	行政からの指導では、福祉事業所におけるBCP(事業継続計画)は自然災害だけでなく感染症対策も含めたプランが、これまで努力義務であったものを令和6年度からは義務化される事になっている。法人、地域、周辺事業所を含め協力体制の下、検討が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人ひとりの情報を共有し、人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉使い、声掛けを徹底している。利用者の皆様は人生の大先輩であり尊敬の念以って接する事よう職員全員に促しています。	事業所内では、利用者一人ひとりの尊厳と権利を守る為のプライバシー確保を行う風土作りを心掛け、不適切な対応があれば職員同士で注意しあっている。利用者に対しては、年長者として常に敬意を払う気持ちが必要であり、あからさまな介護により本人を傷つけないよう日頃から意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけ、時にはこちらから提案をしながら自己決定が出来るように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていなく自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち込まれた衣類の中で、組み合わせなどに気配りを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握できるように努めている。利用者手作りの海苔巻を男の方も一緒に作って楽しんでいる。日常的に食器を洗っていただいたり、日課にしてお手伝いをさせていただいている。	食材の調達には外注しており、メニューが決まってしまうため、月に1回は目先を変えたメニュー変更を行っている。時にはのり巻きを作ったり、敷地内で採れる梅の実から梅干し作りなども行っている。今年度は元気な方が多いので、積極的にお手伝いを行って頂けるため、職員一緒に元気になっている様である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては栄養士が管理しておりバランスの取れた食事を提供している。調理は職員が行い、利用者の個々に応じて形態を変えている。食事や水分の摂取量はケース記録に記入し管理している。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医院の訪問診療を受けている。毎食後、口腔ケアを促し声掛け見守りし対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の日々の排泄パターンを把握している。現在はほぼご自分のタイミングでお手洗いにいられる方が殆どだが見守りや声掛けは行っている。	元気な方が多いため日中は、トイレ誘導を行わなくても自立が出来る方は自分で立ち上がり行けるが、中にはパンツの上げ下げが出来ない為、介助が必要となる方もある。夜間においては一人だけオムツを使用している方がいるが、皆さん比較的ゆっくりおやすみ頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食物繊維の摂取を心がけている。自然排便のない場合、医師及び看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日・時間はある程度決まりがあるが、天候気温を配慮し、その時の利用者の状況で対応している。利用者様の体調を考慮し実施している。又入浴嫌いな利用者も複数いるので声掛けや雰囲気づくり等工夫して心地よく入浴出来るよう努めている。	冬場は週2回、夏場は週3回の利用とさせて頂いている。時には本人の希望や、気候の変化により入浴を希望される方もあるので、臨機応変に対応出来る様に心掛けている。一人で自立入浴出来る方が3人あり、他の方は介助を行う必要があり、特別感を提供出来る事を意識している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備し、室温調整を行い希望者に湯たんぽを貸出し、衣類・布団の天日干しにより安眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしたり、薬剤師に相談や助言をもらっている。服薬管理ノートを作成し、職員全員共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯物畳み等をお願いしている。歌や体操、外出等で一人ひとりにあった気分転換を心掛けている。		



自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やドライブに出かける様に支援を行っている。	これまでコロナ禍出会っても、健康管理のため感染対策をしっかりと行った上で近所の散歩等は行ってきた。今年度の5類移行にともない、ストレス解消の為、ひなまつりや桜見物にはお連れしている。勝浦市は今年度65歳以上の方に5000円のプレミアム商品券発行しており、これで買い物に出掛ける事も一つの楽しみとされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自らお金の管理をし職員が買い物に同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある利用者には自ら手紙や電話のやりとりができるように支援している。 困難な方には、職員が利用者の意志を伝えるなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は御自分の好きなことをして過ごされる方が多くリビングルームでは音楽を聴いたりパズルを解いたりしている。季節の壁紙づくり等協力しながら制作している。	利用者の皆さんが日中集まるリビングにおいては季節感を演出する為に職員は力を入れている。冬場は外も寒いのでできるだけ、室内でテレビ体操や、みんなで作る数字合わせパズルなどで、頭の体操もなっている。日付は分からなくても、最低限季節や行事などはしっかりと意識付けされる様に心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室対応にてプライベートが保たれている。多くの利用者が過ごすリビングにはゆったりとくつろげる様ソファを設置し、写真や手作りポスターを飾り、利用者同士会話が弾む様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物は持ち込みは出来る。出来る方は毎日ご自分でベットメイクして常に綺麗にされて居心地よく使われている。	面会も回数制限はあるものの、家族は居室まで入れる様に配慮しており、居室内の掃除なども、定期的には職員が行うが、時には利用者も参加して一緒にお掃除を行う頂くこともある。ご家族来所時には一緒に参加して頂く。居室内へは危険物以外、自由に馴染みのものを持ち込むことが可能なため、ご家族来所時は憩いのひとときを過ごすことが出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮した家具やソファの配置をし、動線をスムーズに出来るだけ自立した生活を支援している。		